

女性の政治参画への障壁等に関する調査研究報告書(概要)

令和7年3月
内閣府 男女共同参画局

目次

- ・ 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・ 立候補検討における障壁・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ・ 立候補決断から投開票までの障壁・・・・・・・・・・ 5
- ・ 議員活動における障壁・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ・ 政治活動等と家庭生活の両立における課題・・・・・・・・ 8
- ・ ハラスメントの状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- ・ 地方議会議員におけるハラスメントの状況・・・・・・・・ 10
- ・ ハラスメントをなくすために有効な取組・・・・・・・・ 11
- ・ 女性の政治家を増やすために有効な取組・・・・・・・・ 12
- ・ 女性議員の存在による所属議会への影響・・・・・・・・ 13
- ・ 女性の政治参画の障壁と必要な取組・・・・・・・・ 14
- ・ （参考）政治活動等における不安や悩み・・・・・・・・ 15

調査の概要

1. 調査目的

政治分野における男女共同参画をさらに推進するため、国政選挙や地方議会選挙、首長選挙において、立候補を断念した人、立候補をしたが当選しなかった人及び現職の地方議会議員に対するアンケートにより、女性の政治参画への障壁や女性の政治参画の影響などについて調査分析を行い、今後の施策を検討するための参考とすることを目的とする。

※ 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律第6条に基づく実態調査としての障壁等に関する調査は、今回が令和2年度に引き続き2度目。

2. 調査内容

①立候補を断念した人に対するアンケート調査

国政選挙や地方議会選挙、首長選挙に立候補しようと考え、何らかの行動を起こしたが、取りやめた人を対象。モニター599,757人にプレ調査を実施し、上記に該当する対象者1,000人（うち男性500人、女性500人）を抽出し、回答を得た（調査期間：令和6年11月19日～令和6年11月29日）。

②立候補をしたが当選しなかった人に対するアンケート調査

国政選挙や地方議会選挙、首長選挙に立候補をしたが当選しなかった人を対象。モニター599,757人にプレ調査を実施し、上記に該当する対象者98人（うち男性57人、女性41人）を抽出し、回答を得た（調査期間：令和6年11月19日～令和6年11月29日）。

③地方議会議員に対するアンケート調査

令和6年11月11日時点における全国の地方議会議員を対象。地方議会議員5,075人（うち男性3,859人、女性1,213人、不明3人）から回答を得た。（調査期間：令和6年11月12日～令和6年12月27日）。

3. 令和2年度調査からの変更点

- 立候補をしたが当選しなかった人に対する調査を新たに実施
- 地方議会議員への調査について、今回は対象議会を絞って実施していたが、全ての地方議会議員を対象として実施
- 前回調査結果において主な障壁と分かったハラスメント及び家庭生活（家事、育児、介護等）との両立について、より詳細な調査を実施

立候補検討における障壁

- 立候補を断念した理由について、女性の上位3項目は、「立候補にかかる資金の不足」、「知名度の不足」、「専門性や経験の不足」であった。
- 女性と男性で回答割合の差が大きかった上位3項目は、「性別特有の健康課題があり支障が大きい」、「政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境」、「周りに同性の候補者が少なく（おらず）、気軽に相談する相手がいない」であった。

○ 立候補を断念した理由について、「非常に大きな課題となった」又は「課題となった」と回答した割合

(1) 女性の回答割合順 上位5項目

対象	立候補を断念した人		
順位	回答項目	女性	男性
1	立候補にかかる資金の不足	61.6% (▲6.4)	67.2% (1位) (+3.6)
2	知名度の不足	60.2% (▲0.7)	60.6% (2位) (▲1.8)
2	専門性や経験の不足	60.2% (+12.2)	46.8% (6位) (+8.4)
4	選挙運動とその準備の方法が分からない	56.4% (+6.8)	53.2% (3位) (+11.0)
5	仕事や家庭生活（家事、育児、介護等）のため、選挙運動や日常の政治活動にける時間が確保できず両立が難しい	54.6% (▲7.1)	50.2% (5位) (▲12.2)

※（ ）は、男性における全体順位及び令和2年調査結果との比較。
「専門性や経験の不足」は、令和2年調査における「自分の力量に自信が持てない」との比較。

(2) 性差ポイント順 上位5項目

対象	立候補を断念した人		
順位	回答項目	性差ポイント (女性－男性)	
1	性別特有の健康課題（女性：月経困難症、妊娠・つわり、更年期障害等、男性：更年期障害等）があり支障が大きい	+15.0	
		43.2% (14位)	28.2% (15位)
2	政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境	+14.8	
		45.4% (12位)	30.6% (14位)
3	周りに同性の候補者が少なく（おらず）、気軽に相談する相手がいない	+14.0	
		44.8% (13位)	30.8% (13位)
4	自身や家族のプライバシーが確保されない	+13.6	
		51.0% (7位)	37.4% (11位)
5	専門性や経験の不足	+13.4	
		60.2% (2位)	46.8% (6位)

※（ ）は男女内における各全体順位。

立候補決断から投開票までの障壁 ①

- 立候補決断から投開票までの課題について、立候補をしたが当選しなかった女性の上位3項目は、「立候補にかかる資金の不足」、「当選前の職業との両立が難しい」、「家族の理解やサポートが得られない」であった。
- 地方議会議員における女性の上位3項目は、「知名度の不足」、「選挙運動とその準備の方法が分からない」、「専門性や経験の不足」であった。
- 選挙に立候補をした女性において、選挙の当落を問わず回答割合が高かった項目は、「選挙運動とその準備の方法が分からない」、「専門性や経験の不足」であった。

○ 各調査項目について、「非常に大きな課題となった」又は「課題となった」と回答した割合（女性の回答割合順 上位5項目）

対象 調査 項目	立候補をしたが当選しなかった人			地方議会議員		
	立候補を決断してから投開票が行われるまでの課題とその程度			立候補を決断してから当選するまでの間の課題とその程度		
順位	回答項目	女性	男性	回答項目	女性	男性
1	立候補にかかる資金の不足	73.2%	66.7% (2位)	知名度の不足	61.7% (+1.9)	47.1% (1位) (+9.0)
2	当選前の職業との両立が難しい	61.0%	63.2% (4位)	選挙運動とその準備の方法が分からない	52.2% (+5.8)	45.0% (2位) (+4.4)
3	家族の理解やサポートが得られない	58.5%	61.4% (6位)	専門性や経験の不足	51.7% (+9.6)	31.5% (4位) (+13.0)
4	選挙運動とその準備の方法が分からない	56.1%	63.2% (4位)	自身や家族のプライバシーが確保されない	38.3% (▲2.1)	23.6% (7位) (▲2.5)
5	専門性や経験の不足	56.1% (4位)	57.9% (7位)	仕事や家庭生活（家事、育児、介護等）のため、選挙運動や 日常の政治活動にかかる時間が確保できず両立が難しい	36.7% (▲12.2)	22.0% (8位) (▲14.5)
5	政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる 慣習・環境	56.1% (4位)	45.6% (15位)	—	—	—
5	デジタルスキルが乏しく、インターネットを活用する選挙に ついていけない	56.1% (4位)	56.1% (9位)	—	—	—

※（ ）は、男女内における各全体順位及び令和2年調査結果との比較。「専門性や経験の不足」は、令和2年調査における「自分の力量に自信が持てない」との比較。

立候補決断から投開票までの障壁 ②

- 地方議会議員において、女性と男性で回答割合の差が大きかった上位3項目は、「政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境」、「周りに同性の候補者が少なく（おらず）、気軽に相談する相手がいない」、「専門性や経験の不足」であった。
- 選挙の当落を問わず女性と男性で回答割合の差が大きかった項目は、「政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境」であった。

○ 各調査項目について、「非常に大きな課題となった」又は「課題となった」と回答した割合（性差ポイント順 上位5項目）

対象	立候補をしたが当選しなかった人		地方議会議員	
調査項目	立候補を決断してから投開票が行われるまでの課題とその程度		立候補を決断してから当選するまでの間の課題とその程度	
順位	回答項目	性差ポイント (女性－男性)	回答項目	性差ポイント (女性－男性)
1	地元の有力者や有力団体の理解やサポートが得られない	▲16.1 48.8% (12位) 64.9% (3位)	政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境	+31.1 34.3% (7位) 3.2% (15位)
2	知名度の不足	▲14.7 53.7% (8位) 68.4% (1位)	周りに同性の候補者が少なく（おらず）、気軽に相談する相手がいない	+23.4 27.9% (11位) 4.5% (13位)
3	政党の公認や推薦、支援が得られない（希望する選挙区に立候補できない）	▲11.6 46.3% (15位) 57.9% (7位)	専門性や経験の不足	+20.2 51.7% (3位) 31.5% (4位)
4	政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境	+10.5 56.1% (4位) 45.6% (15位)	侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた	+19.2 33.7% (8位) 14.5% (11位)
5	選挙運動とその準備の方法が分からない	▲7.1 56.1% (4位) 63.2% (4位)	自身や家族のプライバシーが確保されない	+14.7 38.3% (4位) 23.6% (7位)
5	—	—	仕事や家庭生活（家事、育児、介護等）のため、選挙運動や日常の政治活動にける時間が確保できず両立が難しい	+14.7 36.7% (5位) 22.0% (8位)

※（ ）は男女内における各全体順位。

議員活動における障壁

- 議員活動を行う上での課題について、女性の上位3項目は、「専門性や経験の不足」、「任期満了後(失職後)のキャリアや生活への不安」、「自身や家族のプライバシーが確保されない」であった。
- 女性と男性で回答割合の差が大きかった上位3項目は、「政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境」、「侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた」、「家庭生活(家事、育児、介護等)との両立が難しい」であった。

○ 議員活動を行う上での課題について、「非常に大きな課題である」又は「課題である」と回答した割合

(1) 女性の回答割合順 上位5項目

対象	地方議会議員		
順位	回答項目	女性	男性
1	専門性や経験の不足	51.3% (▲7.5)	34.4% (5位) (▲7.4)
2	任期満了後(失職後)のキャリアや生活への不安	44.4% (-)	37.0% (3位) (-)
3	自身や家族のプライバシーが確保されない	40.4% (+3.8)	26.0% (7位) (+2.1)
4	人脈・ネットワークの不足	40.1% (+5.3)	31.6% (6位) (+9.4)
5	侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた	40.1% (+5.3)	18.6% (8位) (+16.4)

※ () は、男性における全体順位及び令和2年調査結果との比較。
「自身や家族のプライバシーが確保されない」は、令和2年調査における「地元で生活する上で、プライバシーが確保されない」との比較。
「人脈・ネットワークの不足」は、令和2年調査における「人脈・ネットワークを使って課題を解決する力量の不足」との比較。
「侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた」は、令和2年調査における「性別による差別やセクシャルハラスメントを受けることがある」との比較。

(2) 性差ポイント順 上位5項目

対象	地方議会議員		
順位	回答項目	性差ポイント (女性-男性)	
1	政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境	+29.4	
		34.9% (10位)	5.5% (13位)
2	侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた	+21.5	
		40.1% (4位)	18.6% (8位)
3	家庭生活(家事、育児、介護等)との両立が難しい	+19.0	
		36.9% (8位)	17.9% (9位)
4	周りに同性議員が少なく(おらず)、気軽に相談する相手がいない	+18.6	
		21.3% (11位)	2.7% (16位)
5	性別特有の健康課題(女性:月経困難症、妊娠・つわり、更年期障害等、男性:更年期障害等)があり支障が大きい	+17.6	
		20.1% (12位)	2.5% (17位)

※ () は男女内における各全体順位。

政治活動等と家庭生活の両立における課題

- 政治活動等と家庭生活の両立について、いずれの調査対象においても、女性の方が男性より「両立に課題があった」と回答している割合が高かった。
- 「両立に課題があった」と回答した人について、課題となった内容を見ると、「家事」や「育児」に課題があったと回答した割合が高かった。
- 地方議会議員において、女性は73.6%が両立に課題があったとしているにもかかわらず、男性は36.4%にとどまっており、男性の56.8%が両立に課題はなかったとしていることから、家事や育児の負担が女性に偏っていることが伺える。

○ 政治活動等と家庭生活の両立に関する調査項目について、各対象における回答割合（女性の回答割合順）

対象	立候補を断念した人			立候補をしたが当選しなかった人			地方議会議員		
調査項目	立候補を検討しているとき又は立候補準備中等の日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題			選挙運動や日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題			選挙運動や議員活動、日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題		
順位	回答項目	女性	男性	回答項目	女性	男性	回答項目	女性	男性
1	両立に課題があった	67.4%	43.2%	両立に課題があった	73.2%	59.6%	両立に課題があった	73.6%	36.4%
2	両立に課題はなかった	32.2%	54.0%	両立に課題はなかった	26.8%	40.4%	両立に課題はなかった	23.1%	56.8%
調査項目	両立の課題となった内容（両立に課題があった人の中での割合）								
	女性（n=337）、男性（n=216）			女性（n=30）、男性（n=34）			女性（n=893）、男性（n=1,406）		
1	家事	76.0%	61.1%	家事	76.7%	70.6%	家事	78.5%	52.8%
2	育児	41.8%	43.1%	育児	56.7%	50.0%	育児	40.3%	41.6%
3	家族の看護	18.7%	20.4%	家族の看護	26.7%	26.5%	介護	30.9%	28.1%
4	介護	17.5%	18.1%	介護	16.7%	20.6%	家族の看護	19.1%	17.4%

※「両立に課題があった」、「両立に課題はなかった」のほか、「不明」と回答した者もいる。

ハラスメントの状況

- ハラスメントの状況について、自身や家族、支援者等が「ハラスメントを受けた」と回答した人の割合は、立候補をしたが当選しなかった女性や立候補を断念した女性では低い一方、地方議会議員の女性では最も多かった。
- 地方議会議員の結果を見ると、女性では「ハラスメントを受けた」と回答した人が53.8%と最も多い一方、男性では「ハラスメントを受けたことはなく、直接又は間接に見聞きしたこともない」と回答した人が41.0%と最も多い。同じ行為等がハラスメントか否かについて男女で認識に差があることが伺える。

○ ハラスメントを受けたかに関する調査項目について、各調査対象における回答割合（女性の回答割合順）

対象 調査項目	立候補をしたが当選しなかった人			地方議会議員		
	回答項目	女性	男性	回答項目	女性	男性
1	ハラスメントを受けておらず、直接見聞きしたことはないが、他の候補者に対するハラスメントがあると聞いたことがある	31.7%	22.8% (2位)	ハラスメントを受けた	53.8% >23.6% (2位)	
2	ハラスメントを受けていないが、直接見聞きした	19.5%	28.1% (1位)	ハラスメントを受けたことはなく、直接又は間接に見聞きしたこともない	19.5% <41.0% (1位)	
3	ハラスメントを受けたことはなく、直接又は間接に見聞きしたこともない	19.5% (2位)	21.1% (3位)	ハラスメントを受けておらず、直接見聞きしたことはないが、所属議会における他の議員や、他の候補者に対するハラスメントがあると聞いたことがある	12.4%	16.2% (3位)
4	分からない、答えたくない	17.1%	10.5% (5位)	ハラスメントを受けていないが、直接見聞きした	6.8%	8.8% (4位)
5	ハラスメントを受けた	12.2%	17.5% (4位)	分からない、答えたくない	5.1%	7.4% (5位)

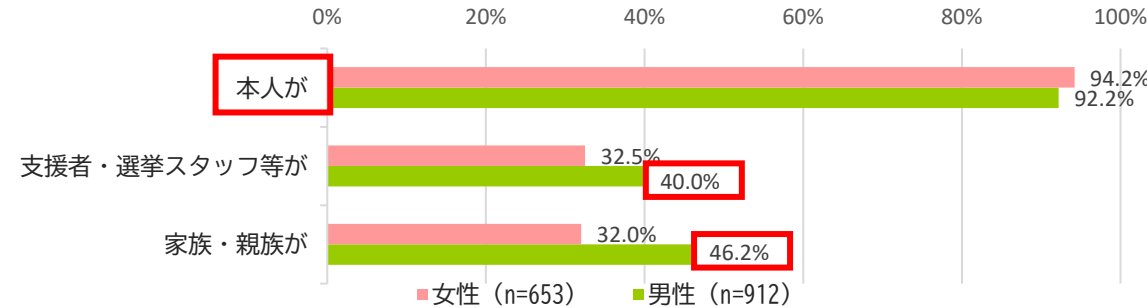
(参考)立候補を断念した人		
立候補を検討しているとき又は立候補準備中に、自身や家族、支援者等が有権者や支援者、議員等からハラスメントを受けたか		
回答項目	女性	男性
ハラスメントを受けたことはなく、直接又は間接に見聞きしたこともない	41.8%	45.2% (1位)
分からない、答えたくない	21.2%	16.2% (3位)
ハラスメントを受けておらず、直接見聞きしたことはないが、他の候補者に対するハラスメントがあると聞いたことがある	20.6%	22.4% (2位)
ハラスメントを受けていないが、直接見聞きした	11.8%	13.2% (4位)
ハラスメントを受けた	4.6%	3.0% (5位)

※（ ）は男女内における各全体順位。

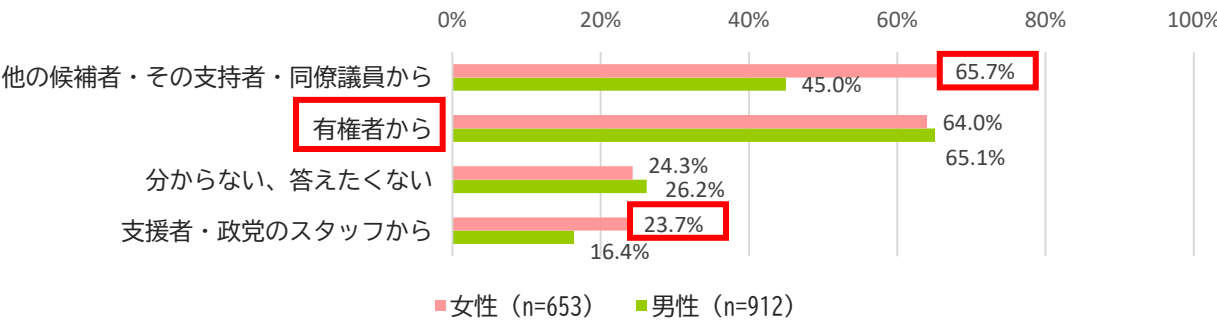
地方議会議員におけるハラスメントの状況

- ハラスメントの対象者について、男女ともに「本人が」と回答した割合が最も高かった。また、「家族・親族が」、「支援者・選挙スタッフ等が」対象となったと回答した割合は、男性回答者の方が高かった。
- ハラスメントの行為者について、男女ともに「有権者から」と回答した水準が高かった。また、「他の候補者・その支持者・同僚議員から」、「支援者・政党のスタッフから」と回答した割合は、女性回答者の方が高かった。
- 議員本人が受けたハラスメントの内容について、「性別による無意識の思い込みからくる侮辱的な態度や発言」、「触る、抱きつく等の身体的な接触や付きまとい、ストーキング」、「性的な言葉等による嫌がらせ」と回答した割合は女性議員の方が高かった。

○ ハラスメント対象者（女性の回答割合順、複数回答）



○ ハラスメント行為者（女性の回答割合順、複数回答）



○ 本人が受けたハラスメントの内容（女性の回答割合順 上位5項目）

地方議会議員			
対象			
順位	回答項目	女性	男性
1	暴力的な言葉（ヤジを含む）による嫌がらせ	72.0%	85.1% (1位)
2	性別による無意識の思い込みからくる侮辱的な態度や発言	66.5%	29.7% (4位)
3	SNS等によるインターネット上での誹謗・中傷、嫌がらせ	54.0%	56.2% (2位)
4	触る、抱きつく等の身体的な接触や付きまとい、ストーキング	49.3%	27.6% (6位)
5	性的な言葉等による嫌がらせ	48.6%	27.1% (7位)

※（ ）は男性における全体順位。

※ 女性（n=615）、男性（n=841）

ハラスメントをなくすために有効な取組

- ハラスメントをなくすために有効な取組について、いずれの調査対象においても、女性の回答割合が高かった項目は、「政党・会派」による「ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置」及び「ハラスメント相談窓口の設置・相談体制の整備」であった。
- 一方、地方議会議員において、女性の回答割合が最も高かった項目は、「議会・選挙管理委員会」による「ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置」であった。

○ 有権者、支援者、候補者、議員等からのハラスメントをなくすために有効だと思う「議会・選挙管理委員会の取組」及び「政党・会派の取組」
(女性の回答割合順 上位5項目)

対象 順位	立候補を断念した人				立候補をしたが当選しなかった人				地方議会議員			
	主体	項目	女性	男性	主体	項目	女性	男性	主体	項目	女性	男性
1	政党 会派	ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置	59.7%	57.1% (2位)	政党 会派	ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置	68.8%	72.2% (2位)	議会 選管	ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置	72.1%	66.9% (1位)
2	政党 会派	ハラスメント相談窓口の設置・相談体制の整備	58.2%	50.6% (5位)	政党 会派	ハラスメント相談窓口の設置・相談体制の整備	56.3%	61.1% (5位)	政党 会派	ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置	71.9%	65.4% (2位)
3	政党 会派	ハラスメント防止又は倫理に関する規定の整備	55.2%	61.0% (1位)	政党 会派	議員や議員を補助する者等へのハラスメント防止研修の実施	56.3% (2位)	66.7% (4位)	政党 会派	ハラスメント相談窓口の設置・相談体制の整備	71.3%	61.1% (6位)
4	政党 会派	議員や議員を補助する者等へのハラスメント防止研修の実施	53.7%	51.9% (3位)	政党 会派	候補者に対するハラスメント被害のアンケート調査等の実態調査	56.3% (2位)	61.1% (5位)	議会 選管	ハラスメント相談窓口の設置・相談体制の整備	70.5%	60.3% (7位)
5	政党 会派	ハラスメント相談事案に関する調査	53.7% (4位)	51.9% (3位)	議会 選管	候補者に対するハラスメント被害のアンケート調査等の実態調査	53.7%	42.1% (9位)	政党 会派	議員や議員を補助する者等へのハラスメント防止研修の実施	70.5% (4位)	61.2% (5位)

※ () は男女内における各全体順位。

女性の政治家を増やすために有効な取組

- 女性の政治家を増やすために有効な取組について、いずれの対象でも共通して回答割合が高かった項目は、「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消のための研修」、「こどもの頃からのライフステージに応じた主権者教育」、「政治家と政治家を目指す人との交流・ネットワークの構築、参加案内」であった。

○ 女性政治家を増やすために有効だと思う取組 （女性の回答割合順 上位5項目）

対象	立候補を断念した人			立候補をしたが当選しなかった人			地方議会議員		
順位	回答項目	女性	男性	回答項目	女性	男性	回答項目	女性	男性
1	性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消のための研修	25.6%	24.8% (2位)	こどもの頃からのライフステージに応じた主権者教育	31.7%	26.3% (4位)	こどもの頃からのライフステージに応じた主権者教育	47.6%	31.8% (1位)
2	政治家と政治家を目指す人との交流・ネットワークの構築、参加案内	22.4%	23.2% (3位)	性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消のための研修	31.7% (1位)	31.6% (1位)	性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消のための研修	31.1%	20.2% (8位)
3	こどもの頃からのライフステージに応じた主権者教育	21.6%	25.8% (1位)	政治家と政治家を目指す人との交流・ネットワークの構築、参加案内	26.8%	31.6% (1位)	候補者や議席の一定割合を女性へ割り当てる制度（クオータ制）の導入	26.7%	11.7% (14位)
4	選挙のノウハウの研修や政策立案に関する研修	16.8%	22.2% (4位)	HP、SNS等での女性の政治家の活動の発信	22.0%	15.8% (7位)	選挙のノウハウの研修や政策立案に関する研修	25.7%	18.0% (9位)
5	HP、SNS等での女性の政治家の活動の発信	16.4%	15.4% (5位)	女性模擬議会	19.5%	14.0% (8位)	政治家と政治家を目指す人との交流・ネットワークの構築、参加案内	23.2%	25.3% (4位)

※（ ）は男女内における各全体順位。

女性議員の存在による所属議会への影響

- 女性議員の存在による所属議会への影響について、男女ともに「議論の内容が多様化し多様な住民ニーズが政策に反映されている」と回答した割合が最も高かった。
- 男女のポイント差が大きかったのは、「住民の議会に関する関心が高まっている」、「議会運営の透明性が高まっている」、「議論の内容が多様化し多様な住民ニーズが政策に反映されている」であった。

○ 女性議員の存在による所属議会への影響（女性の回答割合順）

対象	地方議会議員			
順位	回答項目	女性	男性	性差ポイント (女性－男性)
1	議論の内容が多様化し多様な住民ニーズが政策に反映されている	71.4%	51.3% (1位)	+20.1
2	住民の議会に関する関心が高まっている	52.9%	28.7% (3位)	+24.2
3	ハラスメントへの意識が高まっている	45.7%	37.8% (2位)	+7.9
4	議会運営の透明性が高まっている	43.6%	22.0% (5位)	+21.6
5	議員としての働き方の見直しや意識改革が進んでいる	30.5%	22.6% (4位)	+7.9
6	議会において、会議規則の改正、託児スペース設置等、家庭生活との両立支援に向けた仕組みの整備が進んでいる	24.8%	18.2% (6位)	+6.6

※（ ）は男性における全体順位。

※ 女性（n=1,205）、男性（n=3,388）

○ 女性議員の存在によってもたらされた所属議会における良い変化の例（自由記述）

自由記述による回答の例	【議論の内容が多様化し多様な住民のニーズが政策に反映されている】
	・ <u>市民の声を身近に聞き、政策に反映されている</u> （女性50代）
	・ <u>教育や福祉サービスにおいて女性が日々受け取る立場になることが多い為、よりきめ細やかな改善につながっている</u> （男性40代、50代、60代、70代以上／女性50代、60代）
	【住民の議会に関する関心が高まっている】
	・ <u>女性議員がいて、議会が身近になったという声を聞く機会が増えた</u> （女性70代以上）
	・ <u>支援者の年代層が拡大し、議会に興味を持つ人が増えた</u> （男性50代）
自由記述による回答の例	【ハラスメントへの意識が高まっている】
	・ <u>乱暴な発言、無神経な発言が減った</u> （男性60代）
	【議会運営の透明性が高まっている】
	・ <u>女性議員同士での話し合いの機会が持てる、女性議員同士で情報交換・意見交換ができる</u> （女性30代、40代、60代）
	【議員としての働き方や両立支援の整備】
	・ <u>オンライン会議の整備や妊娠、出産、介護をする人でも議員になれるような体制について協議が始まった</u> （男性40代、50代、60代／女性30代、40代、50代、60代）

女性の政治参画の障壁と必要な取組

- 各調査結果を踏まえ、女性の政治参画の障壁としては、主に以下の5つが考えられる。
- 女性の政治参画の推進に向け、それぞれの課題に応じて適切な取組を講じることが求められる。

課 題

必要な取組

1

固定的な性別役割分担意識

いずれの調査対象においても、「政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境」が課題となったとの回答における男女の差が大きい



- 性別による無意識の思い込みの解消に向けた研修等の実施や、政治的中立性を確保した上での出前授業、模擬議会や地域リーダー研修等の主権者教育の機会の確保

2

ハラスメント被害

地方議会議員への調査において、回答した女性の半数以上が、自身や家族、支援者等が「ハラスメントを受けた」と回答



- ハラスメント相談体制の整備
- 議会や政党等によるハラスメント防止研修の実施

3

政治活動・議員活動と家庭生活・職業生活との両立

いずれの調査対象においても、約7割の女性が政治活動を行う上で「両立に課題があった」と回答



- 議会での欠席規定の整備や制度を利用しやすい環境づくり
- 政治活動・議員活動におけるオンライン技術の活用促進

4

相談しやすい環境の不足

立候補を断念した人・地方議会議員への調査において、「周りに同性の候補者・議員が少なく(おらず)、気軽に相談する相手がいない」と回答した男女の差が大きい



- 先輩議員によるサポート支援や政党におけるメンター制度
- 女性議員ネットワークの形成や活動支援

5

専門性や経験の不足

いずれの調査対象においても、回答した女性の半数以上が「専門性や経験の不足」を課題として回答



- 政治や行政、選挙のノウハウ等を学べる研修の開発・提供
- 各政党等による人材育成のための「政治塾」
- 男女共同参画センター等による地域リーダー研修の実施
- 自治会や町内会等の地域社会における役職経験の提供

(参考) 政治活動等における不安や悩み

- 政治活動等における不安や悩みについて、いずれの調査対象においても、「選挙運動とその準備方法」、「家庭生活との両立」、「立候補にかかる資金の不足」等に関する不安や悩みが見られた。

○ 政治活動等の期間に抱えていた不安や悩みの回答の例（自由記述）

対象	立候補を断念した人	立候補をしたが当選しなかった人	地方議会議員
調査項目	立候補を検討しているとき又は立候補準備の間に抱えていた不安や悩み	直近の選挙で、立候補を決断してから投開票までの間に抱えていた不安や悩み	立候補を決断してから当選するまでの間の不安や悩み
自由記述による回答の例	【選挙運動とその準備方法】 - 選挙に必要なノウハウが分からない（性別年代共通） 【家庭生活との両立】 - 家庭との両立が難しい（男性30代／女性30代、40代、50代）。子育てとの両立が難しい（女性20代、30代、40代、50代） 【ハラスメント・プライバシー】 - 他の立候補者が政党ぐるみで嫌がらせをしないか（女性40代） 【立候補にかかる資金の不足】 - 供託金の準備が難しい（性別年代共通） 【当選前との職業との両立】 - 仕事との両立（性別年代共通） 【専門性や経験の不足】 - 知識が足りなくて検討すら難しい（女性30代）	【選挙運動とその準備方法】 - 自分の訴えが有権者に確実に届くかどうか、どのような反応があるのか不安（女性40代） 【家庭生活との両立】 - 母親の介護もあり、運動時間に制限があり、活動出来なかった（男性40代） 【立候補にかかる資金の不足】 - 供託金の準備不足、資金対策（男性30代、40代／女性20代） 【当選前の職業との両立】 （立候補に当たって）会社を辞めさせられた（男性60代） 【その他】 - 選挙後の業務が分からない（男性40代） - 落選時の生活が不安（男性30代）	【選挙運動とその準備方法】 - 選挙活動のやり方がわからない（男性30代、40代、60代、70代／女性30代、40代、50代） 【家庭生活との両立】 - 子育てとの両立が難しい（女性20代、30代、40代） 【ハラスメント・プライバシー】 - 誹謗中傷する怪文書や動画が出回った（女性60代） 【立候補にかかる資金の不足】 - 資金不足（男性20代、30代／女性20代、40代、50代） 【地元の有力者や有力団体の理解やサポートが得られない】 - 自治会からの推薦がないと立候補できないため、女性の私が自治会の人（男性）たちに認めてもらえるかという不安が大きかった（女性60代） 【当選前の職業との両立】 - 仕事との両立（男性30代、40代、30代、40代／女性50代）